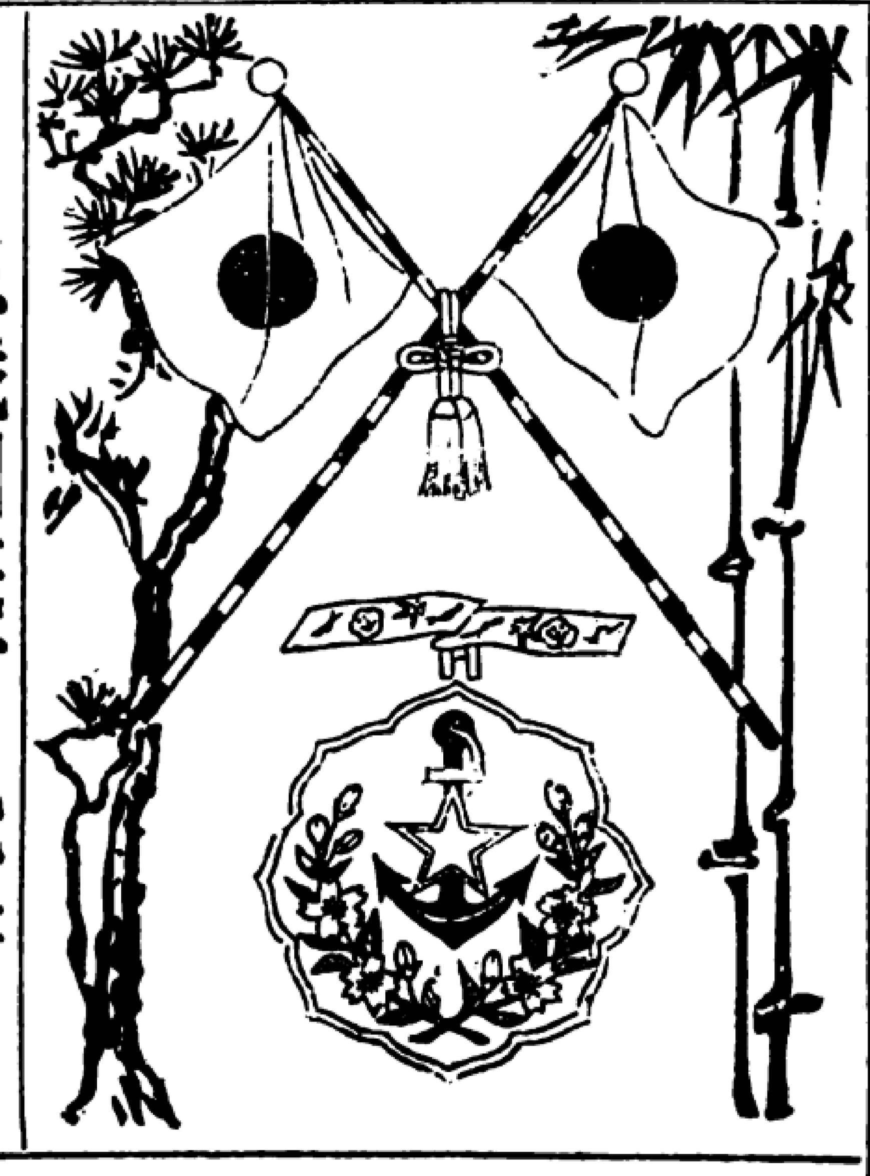
愛國婦人會機關

# 愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚壹錢一ヶ月分六錢三ヶ月分拾八錢半年分參拾六錢壹ヶ年分七拾貳錢（全國無郵送料郵券代用（寄錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢
發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄



## 總裁閑院宮妃殿下御諭旨

我愛國婦人會は諸氏が赤誠を集めて能く慈惠の美果を著くる事を得んとす今よります〳〵斯會の培養に怠らすば遂には君國のために身を致したる幾多軍人の忠魂を慰め遺族の窮困をも救ふ事を得べし我れ今日諸氏の望みに從ひてこゝに總裁たる事を諾し以て斯會前途の發達を希ふ

編者謹て申す右御諭旨は昨年三月　閑院宮妃殿下を本會總裁に御推戴奉りたる節本會に賜はりたる御諭旨なり愛てたきみむねに副ひまつらむとて願ふため年の始めに吉例として掲ける事とせり

## 恭賀新年

大御代の年の始、春めきて長閑に覺え候を、其例にもれぬ各地會員の君方、御けしき麗しう、御齢を重ねさせ給ふらむと、めてたく存上げ候。われら一同事なく年を迎へ候まゝ、御心やすく思召させられたく候。扨もわが愛國婦人會、日に月に盛隆に赴き、總裁殿下を奉戴し、入會者も四万幾千人に及び取わけめてたき年を迎へ候。是全く聖代の恩澤と、御許様方の熱心なる盡瘁とに由りて、斯くも盛に相成候事と、邦家の爲深く感佩仕候。なほ此上ながら、今年はまた去年にも增して、いそしみつくさせ給ひ、渥き大御惠にこたへ奉られむことを希ひ候。めてたくかしこ。

明治三十七年一月一日

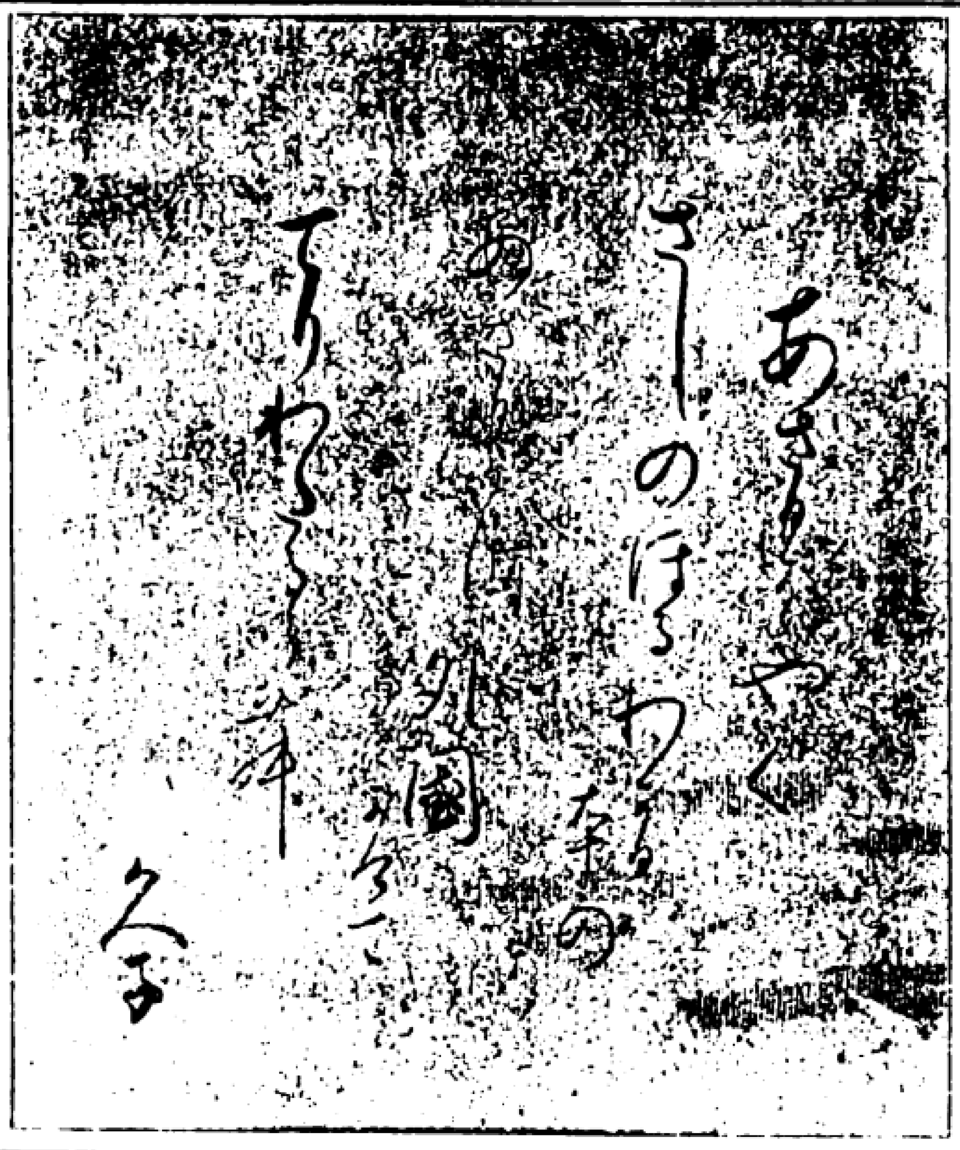
愛國婦人會理事　子爵夫人　谷玖滿子
同　侯爵夫人　鍋島榮子
同　侯爵夫人　大山捨松子
同　公爵毛利元昭母　毛利安子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　公爵夫人　近衛貞子
同　公爵夫人　徳川泰子
同　公爵夫人　一條悦子
愛國婦人會會長　公爵夫人　岩倉久子

道廳各府縣愛國婦人會支部
幹事長御中
幹事御中
會員御中

## 社說

### 幸福論

さいはひとは、まづ無病息災にて、命長く、德高く、家富み榮えて、一家一族類廣くなとあるを云ふなるべし。然るに壯健の人、長壽の人、高貴の人、富裕の人、また、子孫一類の多き人、みな悉く、我れは幸ひ人なりと、悦びつゝ年中笑ひてのみ居るものにあらず。やゝともすれば、反對に、是等の人の却りて、袖に涙をつゝむ時、腹立ち怒り、或は世を不平不愉快に渡る事多きがごとくなるは何ぞ。つひ、一亘り思ひ廻らせば、いかにも、理屈に合はぬやうなれども左にあらず。事物の關係は多ければ多き程煩ひも繁き道理なり。然らば、



會長　公爵夫人　岩倉久子筆

さいはひとは、いかなるものを指して云ふぞと言はんに、そは唯其心の圓滿なる人の境遇を言ふにて、即ち安心といへることの定まりたるが、さひはひ人なり。故いかにとなれば、彼の德者仁人を見るべし。身は病に臥せども、心いられもせず、命旦夕に迫れども、悲しめるさまも無し。況んや貧困卑賤の地位に居る、更に意に介する所無きなり。身孤獨なれども、其德を慕ふ者、群をなして來たり集まり、之を信じ之を敬する人、亦尋常骨肉の能く及ぶ所にあらず。災厄に遇ふも天命と悟りては、一向に驚き恐るゝ事も無く、誹毀に遭へども、自信の力强ければ、更に憤り悲しめる事も無し。心は天地の廣きかごとく、身は秦山のゆたかなるか如し。何時いかなる場合に在りても、毫も迫り縮かめる事無きか故に、常に愉快に活潑に、進むも退くも、行くも止まるも、道に從ひ、理に基きて、高く潔き心の玉には、塵の汚れをも見ず。求むる所無ければ諛ふ人も無く、恐るゝ事無ければ憚る方も無し。これを是れ、世のさいはひを集めたる人とは云ふなり。そはいかにしてか求め得べき。こはいと易き事。心を正しうし、意を誠にし貪慾を退けて、つゆも邪念の腦裏にきざす事無からしめば、今か今にても、このさいはひの樂園に入るを得べし。あらたまの年の始めのほぎごとに代へて、この條を服膺せん人は、みなあらゆる世界のさいはひを得べきなりけり。

古歌に

白金も、こがねもいかで。くもり無き、
心の玉ぞ、たからなりける。

能く味ひて、この深意を悟り得たらん人は、火にも燒けず、水にも溺れず、身を終ふるまで安くのどかに貯ふべき、寶玉をたもちて、天下無雙の幸ひを獨占せりといはまし。

會長　公爵夫人　岩倉久子

あさ日かゝやく

さしのほるわか日本のあさ日かけ
外國かけてりわたるらむ

評議員　子爵夫人　田中伊與子

あたなみのよしよせくとも敷島の
やまとしまねのうこくへしやは

評議員　男爵夫人　千家俊子

あら玉のとしの初そり一ひらの
ふみにも千々のまこと見えけり

評議員　男爵夫人　三井苞子

日のもとのをしへのみちもいやましに
たちさかえゆく君かみよかな

評議員　中山幸子

鶴龜

龜あそふいはほの上におひたちて
つるのむれゐる千代のおい松

福岡會員　村島常子

巖上松

動きなき御代の姿と仰くかな
巖のうへに茂る松か枝

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には　總裁閑院宮妃殿下より本會へ御下賜相成たる御短冊の寫眞を添ふ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 論説

## ◎婦人と慈善事業

相談役 男爵 松平正直

◉美しき本會の目的、慈善は文明の花であッて、慈善事業の發達如何は、其國の文野を知るの尺度である。我國に於ける數ある慈善事業の中にても其目的の美しき事、本會の右に出づるものはあるまい。婦人は血税の義務を負はぬ代りに、軍人の遺族を救助して、後顧の憂なからしむると云ふ、實に高尚の目的を以て愛國の熱情よりして、本會が設立された譯である。此目的を遂せんが爲に、會員は自から儉約して會費を調へ國家の爲に之を提供すると云ふ清い高尚なる精神は、費用其物を出すと云ふ事柄よりも、更に尊ぶ可きものであッて、本會の事業として數万圓集めて軍人の遺族を救助したと云ふ事柄よりも先づ國家の爲に盡すと云ふ、意思の婦人が斯く多數にあると云ふ事柄が誠に喜ぶべき事で非常に大な働きの出來る事であると思ふ。殊に上流の婦人が殆んど此會の爲に一致されて盡されると云ふに至ては、邦家のため甚だ喜ぶべき事である。

◉言行一致を要す　如此高尚なる目的を以て會員となりたる以上は言行一致せねばならぬ、即ち此高尚なる意思、國家の爲に盡すと云ふ意思を家庭に於ても應用せねばならぬ。元來日本の家庭に於ては宗教的観念がないから、宗教的教義によッて家庭を組織する譯に往かぬ、乍併凡そ一國には一國の國是かあると同しく家庭に於ても一定の主義方針がなくてはならぬ。故に私は此愛國婦人會の主旨を何處までも貫いて之を家庭に應用する事が必要であらうと思ふ。

◉家庭の主義　然らば如何にせば本會の主旨が家庭に應用されるかと云ふに國家の爲に盡すと云ふ観念を、家庭の主義方針とするのである。即ち夫に仕へるのは、國家の爲に盡すのである、夫は外に出て、國家の爲に盡すのであるから、これが妻たるものは、夫の力をして、専心に其事に盡さしむる様、家庭に於ては儉約を守り、夫をして家を顧みるの憂ひなからしむる様に心懸るのである。又子供を教育するにしても、國家のために教育する観念で以て、教育し子供を導く上に於ても常に國家思想を養ふ上に注意し、又婢僕を使用するにしても、慈善の意思を以て、能く之を愛して使ふ事とし、本會々員たるものは、只表面斗り高尚なる目的に向ッて進むと云ふのみでなく、内に在つてもよく其主旨に叶ひ、流石に慈善家たる家庭に反せぬと云ふだけ立派なる家庭を組織されん事を希望する。元來會員が本會に出す費用は、僅少之のもので、其行爲は眞の一時であるけれども、二六時中絶えず續いて居る次第であるから、本會の主旨を家庭の主義方針として、家庭を組織したならば、國家の幸福は限りなく、増す事であろうと思ふ。

◉慈善家に注意　慈善の目的の爲に、婦人が集會する事は、善き事柄であるが、之にも餘程注意を要する。婦人が多數集ると兎角く、外表の装にのみ眼を注ぎ、人の意思や、居動に注意をせぬから、自然衣服服装等に着眼し、其結果奢侈の風俗を作る事がある、又交際が盛んになるに從ひ饗宴を張るとか云ふ催しが繁くなる。又一人が百圓寄附すると云へば、自分は二百圓寄附すると云ふ競爭心を起し、挌家に歸つて見ると、家政は調はず、金はないし、自然主人と爭ひを生じ、家庭が平和に往かないやうな次第になると、折角の儉約の主旨は何處へやら往ッて仕舞ッて、殘る處は奢侈と家庭の不和と云ふ事になる。本會は始めより其邊に深く注意してあッて、本會の集會は、他の婦人會の模範となるだけに質素にして、簡易に行はれて居り、此風は地方にまで及ぼして、地方の集會に迄も、此主旨がよく行届いて居るは、結構な次第であッて、かゝる集會には屢々臨まれる事を希望するが、一般の婦人慈善會に臨まんとする婦人には、特に注意を要するのである。

評議員 男爵夫人 千家俊子

軍旗　理事 公爵夫人 一條悦子

日のもとのみ旗の風に天がした
なびかぬ國もなき世なりけり

## ◎新年の所感

相談役陸軍歩兵少佐 堀内文治郎

私は茲に新年を賀し 總裁殿下を始め奉り我愛國婦人會員の君がたの御健康を祝するは、無上の愉快とする所であります。もう一つ私の愉快至極に感じますのは、我愛國婦人會員の君がたの、愛國の氣性と勇氣が、益々奮起せらるゝとであります。それは何であるかと申しますのに、昨年來の大演習に於て 陛下御臨幸になりました地で、市や町は無論のこと、如何なる寒村避地でも、我愛國婦人會員の君がたが、早朝霜を蹈み分けて、北風寒く面を打つをも意とせず、立ち並んで奉迎せられたのを視ても分ります。特に東洋の風雲次第に急がしく、日本帝國臣民は、一大覺悟を爲さねばならぬ様子が見えて來ますと、會員の君がたの御奮發が、益々其度を高めて參りますとは、彼の義侠心に富むを以て有名なる米國陸軍看護婦會監督「ドクトル、マギー」女史にも、決して負けず劣らぬ、忠勇義侠の精神に富まるゝことが現はれて參りますとです。「ドクトル、マギー」女史は曰く

開戰の布告に際し、日本陸軍の病傷春看護の補助を爲す云々

開戰の布告あるや否、最も外科的熟練を有する數人の看護婦同伴して出發する事を得べし云々

此女史外諸有志諸嬢の義侠心も、其勇氣も我愛國婦人會員の君がたが、今日以後如何なる場合に我帝國が、遭遇するも、其時益々奮發せらるゝ處のものと、異ならざる否、優るとも劣らざるを確言するとの出來ますのは、實に新年第一の愉快なる事であります、會員の君だちよ、北風吹き荒む今日此頃、一層の御用心と御奮發を祈ります。軍政の後援の爲めに、戰死傷者の遺族の爲めに!!!

初春鶴　公爵世嗣夫人 德川久子

うら／＼とそらより春もきにけらし
かすみ羽ふきてたつまい下る

特別大演習の時月夜明石舞子の間を自轉車にて走せて

相談役陸軍歩兵少佐 堀内文次郎

さやけき月を友として　明石舞子の濱傳ひ
呼べば答へん淡路島　松の小蔭に見えかくる

晩秋京濱間汽車中所見

黄金色なす秋の田の　畔道傳ひ稚兒二人
茜の袴けなげにも　學校さして急ぎ行く

## ◎夫に對する希望

某男爵夫人

○夫が妻に對し、自分の行ひを秘すると云ふ事程家庭の平和を破る事はありません。妻は夫の秘密を破るものではありませんから、何事によらず妻の前には、明かに示されん事を希望します。

○家庭に於ては、互に恕すと云ふ事が必要でありますから、妻が或る一事に就て、讓歩したる場合は夫は又他の一事に就て讓歩されん事を希望します。

○他人の前に於て妻を遇すると同様に、獨居の時に於ても、妻を同様に遇する事を希望します。

○妻には贅澤をなすなと戒の言葉の未だ終らぬ内から、酒を呼び、煙草を持ち來れと申さるゝ事なき様希望します。

○職務用の爲めに外出せらるゝ外は、可成家に在ッて、家庭の樂みを受けられ交際で以て宴會に赴かるゝ夜は、成可早く家に歸る事を心懸られん事を希望します。

○妻に任されたる以上は、家政に向ッて干渉をしたり、又は善惡の批評を加へたりする事なき様希望します。

○收入以内に於て、生活すべき事を忘らるゝ事なく、妻の渡したる小遣金以外に、使用する事なき様心懸こそ希望します。

○幸福なる家庭は、富家にのみありと思うは誤りにて、財を得る事を心懸けんよりも、家庭の平和を得る事に、心懸られん事を希望します。

松鶴　侯爵世嗣夫人 伊達孝子

あらたまのとしたちかへるかと松に
けさひくしめは霞なりけり

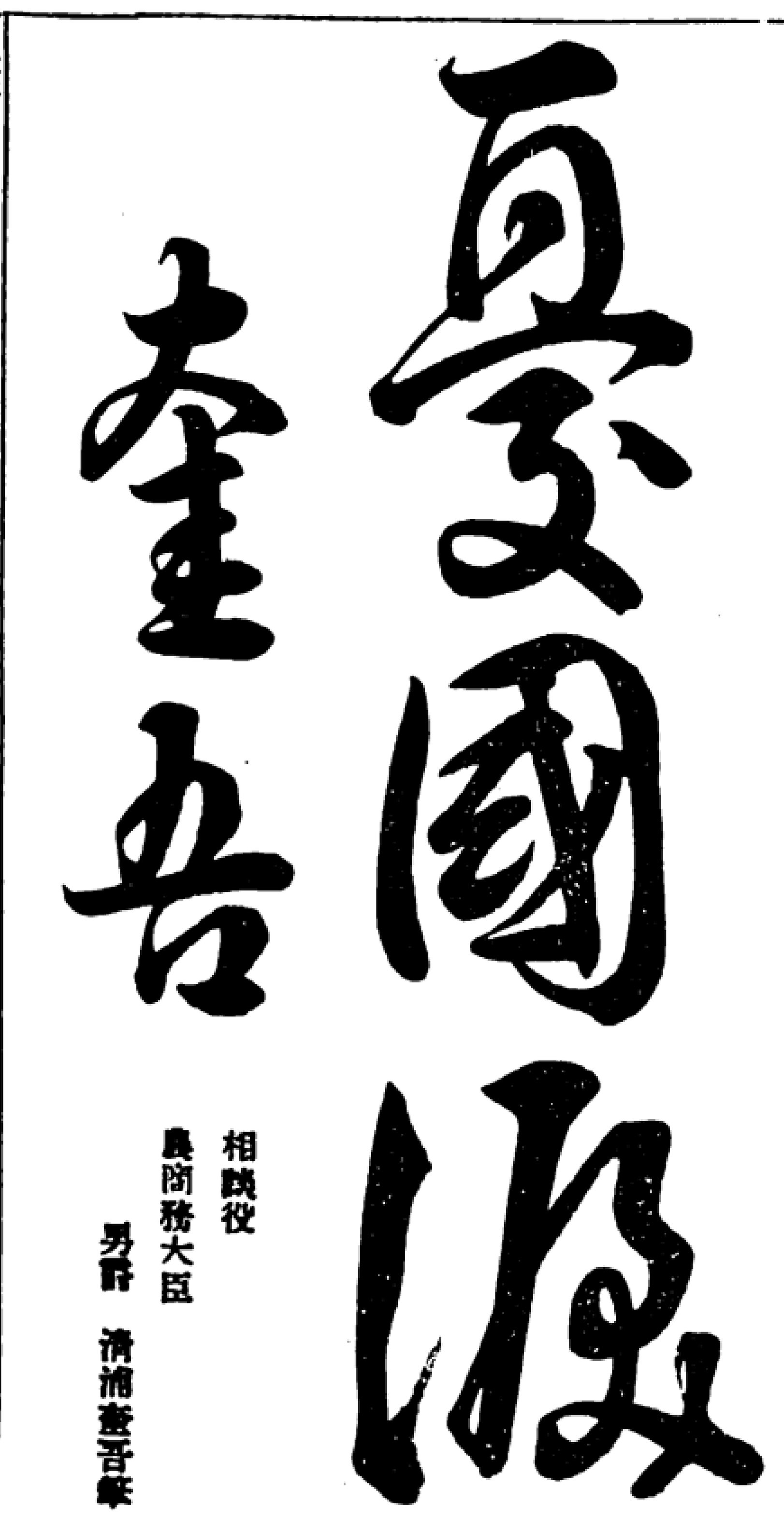


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

德育佳話

## 金剛石夢物語

英領印度の三角形半島の中央へイダラバド州なる小さく美しき村に、アリ、ハフェドといへる波斯人住ひしが、妻は美なり小供等は健なり、其の所有に係る幾萬坪の田園と森林には、五穀熟のり花卉開き、果實生じて、此の世を我が世と暮らしけり。一夕佛陀の僧來りて、世界開闢の事を始めて此の世界を照せし日光の地面に凝結して金剛石となりし事、其金剛石は親指程の大さのものにても、金銀鑛に均しき價ある事、若し其鑛を發見せば王國をも買ふに足ることなどを話し聞かせしに、主人はつくづく之を聽き取りて、己のれの富めりと思ひしことの誤りしことを感じては、我が巨萬の財寶も露と消えたる心地して、其の夜は碌々眠る能はず、翌朝僧を起して金剛石發見の方法を問ひ質しければ、僧は驚きて『金剛石が欲しきや』といへば、『小供等を王位に就けん爲に、是非得たし』といへり『そは唯行きて探し探して之を見出すべきのみ』。『左らば何處に行くべきか』。『北なり南なり東なり西なり、唯公の撰ぶ所』『何を見標に見出すべきや』。『高き山と山との狹間を流るゝ河の白き砂の中にあり』。愚かなる哉、アリ、ハフェドや。彼れは一場の夢に醉ふて、田園を賣り森林を鬻ぎ、妻子を隣家に托して、何處を目的と白雲の漂ふ如く迷ひ出でたり。アラビアの山、猶太の野、さては埃及の廣野原、足に任かせて探がしゆくに、金剛石はあればこそ、嵩むものは年月のみ、耗りゆくものは金子のみ、行き行きて紅海の浪打際に來し時は、財布も空なり、腹も空なり、己のが仕打の愚かさを思ひ、身に纏ふ破衣を眺めては、悔の百度百千度、泣けども叫べども甲斐なくて、憐れや悶へ悶へし末、波の間に飛び込んで、魚の餌食となりにけり。話變ッてハフェドの田園を買ひ受けし者は、ハフェドの如き空想家とは正反對にて、能く己のが運命に安んじ、徐に致富の道を計りしが、或時手飼の駱駝に、我が田園を流れたる谷河の水を飲ませし折、ふと白き砂の中に光輝燦爛たる小石を見つけ、何心なく持ち歸り、棚の上に飾り置きて別に意にも留めざりけり。然るに一日、曾て前の持主に、いらざる話をなして、迷ひの淵に陷れたりし僧の再び、此の家を訪ふことありけり。室に通るや早くも夫の棚の上の小石を見て『金剛石よ、金剛石よ、アリ、ハフェドは歸りしか』と、いと驚て叫びたり。新主人は落つき拂つて『否とよこは金剛石にあらず、尋常の石なり』といへるを、僧は頭を掉りて、直に共に與に夫の谷河に趣きて指もて砂を騒き廻せば、こはそも如何にこは如何に、光の倘も燦やかなる金剛石は多くありき。是れぞこれ夫の印度の有名なるゴルコンダの金剛石鑛の發見せられたる顛末なり。嗚呼、アリ、ハフェドにして徒に慾望の鬼に誘はれ、遠く異境を跋渉し金剛石を見出さんとして、唯困苦と飢餓と死とを見出すことをせずして、己のが運命に滿足して我が田を耕し我が林を整へたらんには、世界第一の富豪となるを得たらんに、善き事の己のが足下に潛むことを知らざりしは、愚かなりける事なりかし。



相談役　農商務大臣　男爵　清浦奎吾書

家庭遊戲

## 家庭遊戲に於ける罰の方法

巖谷小波閲　高階柳陰譯

第一　唱歌を唱ふこと、

第二　謎をかけること、

第三　滑稽談を一つ談すこと、

第四　短い落談をすること、

第五　三題話、これは他の者から三箇の語(題)を出して、それを罰にあたッた者がまとめて短い談をするのです假之ば、薔薇、寫眞、コンスタンチノープルと云ふ三つの語なれば『近頃私はコンスタンチノープルへ旅行をいたしました。そこへ着きますと、誰から聞きましたものか、土耳古の姫君からお使て、御所の御庭に今薔薇の花が盛りてあるから、それを拜見に來いと云ふことで御座いました。私は早速まゐりますと、姫君は大そうお喜びで御座いまして『そなたはマリーどのか、大そう談が上手ださうな、一つ談して聞かせて下さい』と御言がありましたから、私は直に面白いお話をいたしました。さうしますと大そうそれがお氣に入りまして、姫君は御自分のお寫眞を下さいまして『そなたが歸國したら、これを朋友に見せて下さい』と仰いました。かういふやうな話をするのです。

第六　遊戲者の伴侶を、二人三人一寸花にたとへて云ふのです。假令ば松子さんは、お可愛らしいことが、雪鐘花のやうです。竹子さんは、背丈の高いことが、棕櫚のやうです。梅子さんは、觸るとち刺しになるのが、丁度薊花のやうです。花子さんは、お美しいことが、刺のない薔薇のやうです。

第七　前と同じ樣に動物にたとへて云ふのです。御勉强なことが蟻のやうです。胡蝶の樣に毎時花から花へと飛でゐらッしやる。あなたが入らッしやると毎時良いことがありますから丁度蟋蟀のやうです。

(獨逸にては蟋蟀が家の内へ入ると、何か思はぬ吉事ありと云ふ)

第八　遊戲者は圈をつくッてゐて、その中の一人が何か云ふと、罰にあたッてゐる者は、その終に、『それは私です』と云ふのです。假令ば『昨日の新聞に、子供が十三人ある七十歳の厨夫と婚禮をした人があるさうです』と云ふと、その罰にあたッた人は、『それは私です』と云ふのです。その他成るたけ面白いことを云ふのです。『龍動の議事堂を鼻息で吹き飛ばした人があるさうです。』『それは私です。』

第九　眼の試驗、これは罰にあたッた人は、遊戲者がならんでゐる前に立ッて、一人宛その人の眼を笑はずに、極眞面目な顔をして、見てまはるのです。ならんでゐる人は、成るたけ可笑な顔をして笑はせるやうにするのです。

第十　片足で立ッて、何か少しく朗讀するか、又は短い演説をするのです。

第十一　井戸に落ちた。これは罰にあたッた人は跼んでゐて、他の遊戲者は二人もしくは三人て手をひいて、その周圍に立ッてゐるのです。中の人は『私は井戸へ落ちた』と云ふと、他の者は『井戸の深さは幾尋です』とたづねるのです。中の人は『……尋です、……さん上げて下さい』とその人の名を云うて、そして二尋とか三尋とか、云ッたその數だけその人の手に接吻をするのです。

室内

## 新年西洋少女遊戲法

(一)手巾探し

之は吾塵隱しのやうなもので、一人が一室に入ッて手巾を丸めて何處へか室の内へ隱すのです。それから遊戲者を呼び入れて、その中の探し人に探させるのです。手巾のあるところへ近づくと、『火事だ、〳〵、火がつきさうだ』と云ふのです。それから手巾の無い方に行くと、今度は、『水だ〳〵、火が消えた』と囃すのです。探しあてたなら、今度は代ッて隱すのです。この遊戲は探し人を一人にしても又は大勢にしてもいゝのです。

(二)音樂入り手巾探し

これは前の遊戲と同じて、隱した人はピアノなりオールガンなりに坐ッて、火事だ〳〵とか又は水だ〳〵とか云ふ代りに、隱したところへ近づくと音を高く急調に樂器を鳴すのです。又遠くなると、次第に音を低くゆるくするのです。

(三)影の當てッこ

室の内を少し暗くしておいて、遊戲者の一組はその内にゐるのです。他の一組は次の室ッにゐて、その境界に障子をたてるか、又は白い布か紙の幕を張ッておくのです。その一室には燈火を點けて、影をその障子若くは幕に寫すのです。影を寫す人は成るたけ奇妙な風躰をして誰だか分らないやうにするのです、それを一方の室にゐる人が、今のは誰さんであると當るのです。殘らず當ッたら今度は代ッて影を寫すのです。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 家政

## ◎家政要領

### 人事

●●●●●妊娠中の居室は成るべく廣きを良しとす、居室狹きときは頭痛眩暈などを生ずること常人より早し、是れ妊娠中は二人分の呼吸を兼ねるが故なり。

●●●●●起居動作は平生の如くして改めざるを良しとす。但し晩月に至り過激の運動を爲す時は、不時の分娩を來すとあり。其他重き物を持ち、又は乘車にて惡しき道路を走らせ、或は毎日二階の昇降を度々するなどは甚だ宜しからず。

入浴は妊娠中殊に利益あり、皮膚を淸潔にして其機能を進むる効あるのみならず、臨月に近きては殊に局部を淸潔にすべき必要あり、若し不潔なるときは、分娩の際胎兒の目口等を汚し、爲に眼病其他の病を生ぜしむる虞あり、されば全身浴を用ゐ難きときも、僭伾座浴を爲すを良しとす。乳房は大切にして乳養を營むに差支なき樣注意すべし時々冷水にて能く洗ひて此部の皮膚を强壯にすべし。初妊の時は乳頭を引き延ばして嬰兒の吸ひ易き樣に爲し置くべし。便通は常に適宜なるを肝要とす、殊に臨月に近きては大便の秘結せざる樣、毎朝冷水を飲むを良しとす、若しそれにて効なきときは醫師より緩下劑を受けて服用すべし、妄に賣藥など用ゆべからず。

妊娠中には產婆と產科醫とを、早くより賴みて、豫め診察を受け置くべし。されども無學の產婆をして妄りに按腹せしむるは危險なり。其選擇に十分注意すべし。

●●早產　妊婦は精神の感動によりて、早產を來すとあり。偶然の出來事は避くべからざるも、演劇小說等を見て自ら精神に感動を起すなどは避くべきとなり。又家内の人々も心して、妊婦には成るべく憂苦、其他强き感動を與へざる樣深く注意すべし、されども俗間に云ふ所の不具の子の生るゝは、懷胎中妖怪不具者等を見て、妊婦が之に感動したるに由るものなりとするは、妄誕にして取るに足らざるなり、總じて胎兒の其躰を爲すは、妊娠の初期に在るものにて、胎動後に至り斯る關係を有すべきものに非ず、然れども精神の感動の爲に、不熟の出產を爲すとは往々あるとなり。

## ◎春の御馳走

石井泰次郎

日用手料理を以て、春の馳走となすも又一の趣向なるべし。豆腐のはちはい、しほやきの魚、菜漬の煎りたる、鹽大口魚のさきたる、などを採合せて仕組し、献立、左の如し。

日用惣菜を組合せて、一寸來客の膳部に用ゐる時は、採合表を設くるの必用あり、かく採合表をつくる上は、鹹の客來料理の如く見えて、日常の惣菜とは見えがたくなるなり。即ち惣菜料理の應用すべきは、其採合表を製作すると、其馳走の仕方によりて、右の如くなる所を以て、種々の場合に應用する事を得るなり。

### ◎御題巖上松

膳

○向　朝日ほら　岩茸　松か枝生姜

○汁　五分切うど　水からし

○椀　豆腐山かけ　もみのり

○飯

○吸物　さきだら　胡椒　湯

○燒物　かます鹽燒

○香物　いり菜

○取肴　てりごまめ　煮染蕗の頭

○菓子　山椒餅

○向とは、膳の向につくる故の名なり、品は鱠なり、採合は巖の上の松なり朝日ぼらは、ぼらの皮つきの方の肉の色を見せたり。

○汁の煎汁は、次の椀のだしがらを用ひたり。

○椀の盛方は、雪の朝の樣なり、もみのりを用ひたるは、ハチハイ豆腐のつくり方なり、ハチハイとは、豆腐料理のうちにて手易くして馳走の時多く、人に進めらるゝの意より名づけしなるべし。

○同椀の採合表に、山かけと記せるは、薯蕷かけの略言なり。

○吸物のさきだらは、歲暮の到來品を用ふ、鹽湯の味は、熱湯に食鹽をからすぎぬ程入れたり、こせうの詞を忌ぬ地方にては、祝の粉といへり。

○椀のかつを煎汁は、水八合を煮たてたる中に、鰹節を湯につけぬぐひて、上皮を去りて薄くけづりたるを、十六匁位いれて、一沸して、鍋をおろし、泡を去り、絹篩にて漉したるなり。さて此かつをがらを、味噌に合せて、汁に用ふ。

○春の馳走として、向の御題の松の唱歌、カツウヲブシの出兵、朝日鰡のみかげのてりごまめに、吸物の露をさきだら、香の物を進めて參勝餅をとらせ、いはひの粉、富貴の頭をめづる趣向ともいはゞいはるべし。

評議員　男爵夫人三井苞子筆

## ◎家計收支の科目概要

第一項　賄費　日常の飲食物に關する一切の費用、米代、副食物費、味料、酒代、薪炭等飲食物の調理に關するものも此中に入る。

第二項　被服費　家人の被服に關する一切の費用、靴、下駄、蝙蝠傘等の如きも、此費に入れ、又糸、綿、染物、仕立等の費用も此の中に入る。

第三項　借地料　家屋の敷地、又は田畑等借用の費用。

第四項　借家料　家屋使用の費用。

第五項　諸税　地租、家屋税、所得税、營業税、車馬税、自轉車税、畜犬税等。

第六項　教育費　子女の教育に關する一切の費用、授業料、學校用圖書、筆墨紙、修學旅行費、運動會費、遊戯に關する費用も入る。

第七項　交際費　親戚、朋友、知人等の交際に關する一切の費用、贈物、宴會の諸入費等。

第八項　小遣費　家人各自の小遣金。

第九項　備品費　一家に使用する諸道具買入及之れか修繕、即ち箪笥、長持、机、戸棚、敷物等。

第十項　雜用費　石油、マッチ、石鹸、箒、筆、墨、紙等の消耗品、及備品費中に入らざる諸雜品、假令ば、日用の食品類、點火器、桶、盥、火箸、風呂敷、番傘の類。

第十一項　給金　婢僕の給料。

第十二項　雜費　人の勞力に酬ゆる費用、即ち郵便代、運送費、手數料、車賃、入浴錢、散結髮費、町内衞生費、神社の賽錢、觀覽料等。

第十三項　醫藥費　藥價、診察料、車夫への心附等。

第十四項　圖書費　書籍、圖書、雜誌、新聞購入費。

第十五項　庭園費　樹木植付、庭園の修理手入費。

第十六項　修繕費　家屋、塀、垣、疊、建具等の修繕。

第十七項　保險料　生命、火災、物品等の保險料。

第十八項　慈善費　何々慈善會々費、何々慈善音樂會々費幷に之れが爲めに費す車代、神社の寄附。

第十九項　臨時費　家族の婚姻、葬祭、等の費用避暑避寒の費用一家の娛樂費用。

## ◎家計の帳簿

第一　賄帳

賄帳は、日々の飲食物、並に薪炭等總て食物に關する費用を記載するに用ゐる帳簿なり、茶の間又は臺所等手近の場所に備へ置きて、物品買入の都度怠らず之を記載せんことを要す。家の事情によりては、下婢中然るべきものに此の帳簿を掌らしめ、一日の終りに於て、主婦之を撿閲することにすべし。然るときは、豫め其の日の賄費若干金を其の下婢に托しおき、撿閲の際殘金を受取るをよしとす。

第二　日用帳

日用帳は、日々の諸費用及び收入を記載し、其の計算を明瞭ならしむるに必要なる帳簿なり、此の帳簿は主婦たる人必ず之を記載し、一日の終りに於て、賄帳の一日總高をも移載し、手許現金額と、帳簿上の殘金と一致せりや否やを撿すべし。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 愛國婦人會記事

◉評議員臨時總會　一月十四日午後一時、九段階行社に於て、年始互禮會を兼ね、評議員臨時總會及東京府幹事會を開き同時に寫眞を採る筈なり。

◉有功章贈與　左の人々は功勞により、總裁殿下より有功章を賜はりたり。

七寶金色製有功章　廣島　溫田冬子
七寶銀色製有功章　富山　石川貞子
同　同　藤田左士郎
同　同　堀千代子
同　同　天野靜子
同　廣島　三橋敬子
同　同　新妻美登子
同　同　きく子
同　同　三浦梅子
同　同　三浦新平
同　同　賀屋鎌子

◉奥村刀自　昨卅六年中刀自の精勵は實に左表に示すが如くにして、一回演說大概平均二時間餘、而かも一日の内に三度に及びたる事もあり、吾國に於ては男子と雖も恐らく斯く多數の演說を爲したるものはなかるべく、本會が創立日尚淺き、今日既に全國四万數千人の會員を得たるも、眞に偶然にあらざるなり。

○巡回日數　百七十九日
○演說度數　百四十八度
○傍聽者數　九万四千九十人
○巡回府縣　京都、大阪、岡山、栃木、群馬、埼玉、山梨、石川、富山、靜岡、福井、滋賀、廣島、

◉會長理事評議員　昨卅六年中會長理事評議員方が、本會及び地方大會へ出席せられたる星取表左に示す但し一度出席せられたるは多數につき省略せり。

會長　岩倉久子　○○○○○
理事　一條悦子　○○
同　近衛貞子　○○○
同　谷玖滿子　○○○○○○

評議員
山內禎子　○○○
柳澤秀子　○○○○○
岡部坻子　○○
山地謙子　○○○
松平久子　○○○○○○
松平須磨子　○○○○○○○○○○○
神山万佐子　○○○○○○○○○
清浦錬子　○○○
千家俊子　○○○○○○○○○
岩佐德子　○○○○○○
伊澤千世子　○○
伊集院繁子　○○○○○○
鳩山春子　○○○○
濱尾作子　○○○○○○○○○○
豐島文子　○○○○○○○
嘉納須磨子　○○○○
高木鎌子　○○○○○○
棚橋絢子　○○○○
相馬陸子　○○○○
南鄕柳子　○○
中山幸子　○○○○○○○○○○○○○○○○
內山訓子　○○
柳谷千代子　○○○○○○○○○
山脇房子　○○○○○○○○○
山本たほ子　○○○
藤井とく子　○○○○
鄭濱子　○○○○○○○
有島幸子　○○
秋山民子　○○
阪井春子　○○○○○○○
麻生筆子　○○
佐藤猶子　○○○○○○○○○○
佐藤靜子　○○
三輪田眞佐子　○○
島田信子　○○○
澁谷和加子　○○○○○○○○
仁杉歌子　○○○○○○○○○○○
關邨子　○○○○○○○○○

◉香川縣支部の景況　同支部昨年々末の狀況を、報告によって記載せんに、一昨年十二月支部發會式を擧げてより以來會員頓に增加し現在千三百餘人に達せり。會員如何に增加するも收入確實を得るにあらざれば、會の目的を達する能はず。然るに同支部は夙に此に着眼し、縣屬片岡正倫氏に會計の事務を囑托し氏の熱心なる整理により、年醵金の未納の如きは其跡を絶つに至れりと云ふ、次に會員の特權を與ふる事に注意を怠らず、東宮殿下高松市へ行啓の際は、本會々員奉迎送の場所を設けたる處、來會者二百五十餘人の多きに達せり。其服裝も別段制定せざりしに、會員の過半は黑紋付にて、而も本會の主旨に從ひ、頗る質素なるものなりしよし。

◉熊本支部例會　同支部は客年十二月十四日午後一時より、赤十字社熊本支部に於て、例會を開會せり。當日の出席者は、佐藤軍醫部長、淸田一等軍醫正、西行德量師、矢毛智達師、戸張瀧三郎氏、河內山縣屬、德永軍太氏、會員には幹事長江木仲子、副幹事長飯田政子、幹事錦織りう子、以下七拾餘名の出席者あり、佐藤軍醫部長、淸田一等軍醫正、西行德量師の三氏、有益なる講話ありて、午後四時散會せり。

## ◎本會卅六年中行事略記

○一月十四日九段階行社に於て、評議會總會、及年始互禮會を開く、來會者四十二名ありたり。

○三月廿日本會總裁に閑院宮妃殿下を推戴す。同廿二日第二回大會を東京に於て開く、總裁御臨場御諭旨を賜はる。來會者約千人ありたり。此月廿日宮城縣支部第一總會を仙臺市に於て開く。同月軍人遺族に對し、三十五年度分救助金高二千三百八十二圓二十一錢を支出し、七百九十三人に配布したり。

○四月十五日京都市に於て京都支部大會を開く本部よりは、谷、淸浦、兩相談役谷理事並に奥村刀自及本誌主幹山澤俊夫出張せり。同月廿一日大阪市に於て大阪支部大會を開く、總裁殿下御臨場親しく御諭旨を賜はる。

○五月十六日鹿兒島支部發會式を擧ぐ、總裁殿下より御諭旨を賜ふ。來會者約六百名ありたり。

○七月十六日評議員總會を開き、協約狀の規定其他支出豫算を議す。此月四日長崎支部に於て第一回總會を開けり、來會者二百名ありたり。

○八月第十一師團火藥爆發の爲め、負傷者ありたる爲め、本會より其遺族へ弔慰金を送れり。

○九月評議員臨時總會を開き、有功章贈與の件等を議したり。

○十一月八日神奈川縣支部大會を開く、總裁殿下も特に御臨場御諭旨を賜ふ。會長始め谷理事評議員廿餘名本部より出張したり。

○十二月十三日評議員總會を開き、卅六年の豫算案を議したり。

◉幹事囑托　前號紙上に富山縣支部及、栃木縣支部として氏名のみを掲げしが、右は何れも新たに任ぜられたる幹事の氏名なりき。

◉正誤　左の通り照會ありたるにつき、正誤す。
前號の愛國婦人會記事中、愛國婦人會明治三十七年上半期經常費豫算書總計に、一金千八拾九圓七拾錢とあるは、一金千貳拾九圓七拾錢仝內譯第七項に、金百貳拾圓とあるは、金六拾圓仝末文、說明第二行目に合計金百七拾七圓七拾錢を增加したりとあるは、合計金百拾圓七拾錢を增加したりの、誤記誤算に付き、此全文を掲げ、訂正相成度候也。

愛國婦人會

## ◎愛國婦人會會員現在數表（十一月卅日調）

| 支部名 | 特別會員 | 通常會員 | 計 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 東京 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 大阪 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 京都 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 神奈川 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 兵庫 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 長崎 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 新潟 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 埼玉 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 群馬 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 千葉 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 茨城 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 栃木 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 奈良 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 三重 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 愛知 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 靜岡 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 山梨 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 滋賀 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 岐阜 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 長野 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 宮城 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 福島 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 岩手 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 青森 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 山形 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 秋田 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 福井 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 石川 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 富山 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 鳥取 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 島根 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 岡山 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 廣島 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 山口 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 和歌山 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 德島 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 香川 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 愛媛 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 高知 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 福岡 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 大分 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 佐賀 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 熊本 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 宮崎 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 鹿兒島 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 沖繩 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 臺灣 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 海外 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| 合計 | [illegible] | [illegible] | [illegible] |

備考　神奈川、埼玉、千葉、茨城、奈良、三重、山梨、鳥取、島根、廣島、愛媛の支部は、月報未着につき、十月末日調、東京、長崎、新潟、秋田、福井、岡山は、同上理由により八月末調、栃木、佐賀は同上理由により五月末日調を掲ぐ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●昨年の本紙　本紙は愛讀者に酬るため、諸先輩の論説、學理等を迅速、平易に掲ぐる事に、主として力を用ゐ、一ヶ年僅に二十四回の發行八頁の紙面なるにもかゝはらず、其間に掲げたる論説、談話の目次、實に左の如くにして、孰れも有益の文字なり、本年も昨年に劣らぬ奮勵を以て、新らしき學説を紹介するを怠らぬ事を、茲に誓うになん。

◎家政費目の割合　統計審査官　呉文總
◎歐米女子敎の　士　下田次郎
◎如何にせば義士を慰むるを得べき　陸軍歩兵少佐　伊豆凡夫
◎愛國婦人會と軍人精神養成の關係　相談役　陸軍歩兵少佐　堀内文次郎
◎軍艦淺間航海記事　相談役　子爵　小笠原長生
◎女子と年中行事　東京美術學校長　正木直彦
◎感情の教育　評議員　鳩山春子
◎女子修養論　文學博士　元良勇次郎
◎家族同伴の海上旅行　伯爵　柳澤保惠
◎米國の女子風俗　女子高等師範教授　井口あぐり子
◎歐米家庭教育及び女子風俗の現況　文學士　下田次郎
◎奥村刀自か遊説日誌を讀みて所感を述ぶ　員　浦月子
◎日本軍隊勇氣の母　相談役歩兵少佐　堀内文次郎
◎女子体育談　女子高等師範學校教授　井上あぐり子
◎結婚革新論　文學博士　井上圓了
◎占守島の話　海軍大尉　郡司成忠
◎會員の君たちに告ぐ　會長公爵夫人　岩倉久子
◎女子衛生論　伯爵　大隈重信
◎愛國婦人會に對する希望　男爵　清浦奎吾
◎女子と美術　相談役　子爵　岡部長職
◎女子と國家　文學博士　村上專精
◎早婚及び晩婚の話　統計局審査官　呉文總
◎家庭の快樂と下流に對する同情　文學士　下田次郎
◎音樂談　東京音樂學校教授　幸田幸子
◎衣食住と體育との關係　女子高等師範教授　井口あぐり子
◎風俗改良に付て　伯爵　板垣退助
◎英國の家庭　文學士　下田次郎
◎婦人の体質に就て　評議員　三輪田眞佐子
◎動物虐待防止に就て　法學士　松井茂
◎儉約　文學士　江原素六
◎女性に就て　文學士　下田次郎
◎和洋折衷の婚禮に就て　評議員　有島幸子
◎國民としての女性　法學博士　高田早苗
◎何をか新らしき女學と云ふ　明治女學校長　巖本善治
◎清國漫遊見聞談　伯爵夫人　野津とめ子
◎家庭と音樂　東京音樂學校長　大島義脩
◎露國見聞談　林學士　道家充之
◎女子と職業　文學士　下田次郎
◎女子と美術　島田三郎
◎海軍下士卒集會所に就て　相談役　海軍大尉　佐々木高志
◎兒童發達の生理的研究　高島平三郎
◎富士登山の話　評議員　嘉納須磨子
◎呈佐藤愛國婦人會主事　相談役子爵　小笠原長生
◎南洋の婦人　龍江義信
◎下女待遇論　文學士　下田次郎
◎勤儉談　理事　子爵夫人　谷玖滿子
◎再呈佐藤愛國婦人會主事　相談役　子爵　小笠原長生
◎男女交際に就て　文學士　下田次郎
◎婦人の慈善的職業　評議員　山脇房子
◎禮法に就いて　幹事　廣瀬宮子
◎家庭と學校とに就て　女子高等師範學校教授　安井てつ子
◎故參謀次長田村中將の家庭　相談役　陸軍歩兵少佐　堀内文次郎
◎慈善事業について　評議員　棚橋絢子
◎美術の觀念に就て　東京市長　尾崎行雄
◎家庭革新の目的に就て　子爵　渡邊國武
◎我が將來の文學に對する女性の責任　伯爵　大隈重信
◎女子教育の前途に就て　評議員　下田歌子
◎臺灣の風俗　法學士　手島兵次郎
◎公德養成に就て　伯爵　大隈重信
◎家庭の立憲的組織　田川大吉郎

## ◎昨年の女子教育界

年増しに女子教育界の盛んに向かうは實に邦家のため慶賀すべき次第なるが今其模様の概略を各有力なる女學校毎に左に記さん

●女子高等師範學校　同校は男子部の新築と共に其校舍の擴張を計り、同時に規則をも改正し、音樂科を各科に入れ、又各科に体操科を置き、新歸朝者たる井口あぐり女史專ら之に任じ、婦人の体操を奬勵することとせり。尚附屬高等女學校の上に、高等專修科を置き、一層高等なる專門學を教ゆるの途をつくりたり。

●東京音樂學校　近來社會一般に音樂の必要を認め、婦人にして音樂に志すもの多く、殊に西洋音樂は、殆んど上流社會の流行の如き兆あるを以て、入學希望者も非常に多く、昨年四月甲種師範科に官費生若干を募集せしに、全國より出願者非常に多き爲め、適當なる人撰も出來たるよし、其他本科、及び乙種師範科も、志願者多く、殊に撰科とて專門以外に學ぶものゝ爲めに設けたる科の如きは、數百名の申込ありて、入學拒絶する程なりと云ふ、依て本年の甲種師範科には、官費生を廢したるも、志願者は十分に得る見込なりと云ふ。

●東京府高等女學校　第一高等女學校は神田橋外の舊校舍を拂引ひ、淺草區七軒町に新築校舍に移りたるか、新築費用も、約數万圓を費し、運動場の設備等、至らぬくまもなく行届き居り、帝國の模範的の校舍とも云ふべき設備なり、只土地柄丈けに、多少通學の不便あるも、人員は常に滿員なりと云ふ、尚第三高等女學校は、麻布區日か窪に壯大なる校舍を新築し、生徒も滿員の有様なりと云ふ。

●日本女子大學校　校舍を漸次增加し、春秋二期に大運動會を開き、頗る高評を博したるが、生徒の多きは全國に冠たりとも云ふ可く、附屬の高等女學校を併せば、實に七百餘名の在學生なるよし、紳士淑女の同情を寄せらるゝもの多きにより、益々隆盛に趣く可し。

●共立女子職業學校　第四回内國博覽會に其經營一覽表を出品し、第一等賞の名譽を博し、引續き昨年十一月には　皇后陛下の御用品を命ぜらる入學者は滿員にて、常に拒絶のすかたなりと云ふ、目下生徒六百餘人在學中のよし。

●三輪田女學校　昨年中校舍の增築をなし、文部省より高等女學校の認可を得、愈々隆盛に向ひ、目下生徒四百餘人なりと云ふ。

●日本女學校　本郷區に好位地を占めたる同校は、次第に隆盛になり、昨年中女子大學になすの計畫を立て、贊成員等を募り、其主旨を發表したるが、未た新築の運には至らす、本年に至り一層の擴張を見るべしと云ふ、同校生徒六百餘人。

●女子美術學校　有力なる横井玉子女史を失ふてより、塾舍の監督等一切佐藤静子氏の擔任する處となり、時々生徒との爲めに談話會を開き、尾崎市長等も講演せり、卒業式の時は特に桂總理大臣等臨場したり、生徒は各科共滿員の有様なり。

## ◎昨年の慈善界

昨年は色々慈善の行爲、社會に行はれたるか、最もめづらしくて新たなる趣向は、時事新報催しにかゝる、新年に貴家の子女の爲めに雜貨を競はするは、一種異なりて其効果も頗る可なりと云ふ、次は癸卯園遊會の催しにて、各華族の貴婦人が大奮發にて自から其商技の任に當られ、活人畫を催し、兩日にて九千圓餘を得られ、其目的に向ツて十分の寄贈をせられたるは、兎に角く婦人社界の活動として最も見るべきものなりし、其他、慈善的の音樂會も催されたるは、數限りなく、後ちには圖書館の設備にさへ、公益音樂の名の下に於て、音樂會を催するに至れり、然れとも其度每に、來會者堂に滿ち、十分の効果を收めしは流石に東京なりとの感を起さしむ、年末に至り川上一座の慈善演劇は、非常に受けよかりしにより、本年慈善界にては、川上一座か呼物となる傾向あり、其他には時事新報の慈善旅行、及報知新聞の麗人奬勵會の催しに、又岡山孤兒院が多年の經營其完きを得、昨年の博覽會に於て一等賞狀を得たるは斯道の奬勵ともなるべきか、又、博覽會を利用せんとて、米國より婦人矯風會の、スコート嬢來り、博覽會附近にて、盛んに禁酒演説を爲し、社會風俗を矯正せんとせられたり、又海軍に在ツては、下士卒共勵會を設け、水兵の家族を救ふの途を開き、英國に在る日本水兵の母エムマクリン嬢は、前々より勳章を頂戴したり。東京孤兒院は昨年末により愈々新築せられ。動物虐待防止婦人會は、二三回開かれたるも其後ち立消の如きは惜しむべし、其他種々なる慈善事業が、年と共に隆盛となるに至れり。


謹賀新年

婦人洋服地
小間物
御袴地各色變新荷着

東京市麹町貳丁目七番地
八木屋號
大國市藏
電話番町四七二




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 大日本女學會編纂

## 婦人寶典

此書は小松宮頼子殿下の總べさせられ女學の通信教授を以て世に名高き大日本女學會に於て多年蒐集されし所の女學に關する和漢洋の諸材料中より最も婦人に適切なる部分を抜粋したるものと新たに名家の起稿されたるものとを一書にまとめ以て婦人座右の良師友たらしめんが爲に編輯されしものにて殊に其學藝諸科目は孰れも專門大家の擔任に係り實に世に類なき婦人寶典なり其目次並に講述者左の如し

和紙摺帙入全五冊　實價金參圓參拾錢（紙數千三百頁菊版）
洋紙摺（總クロース綴）合本壹冊　實價金貳圓貳拾錢（紙數同上）
小包郵送料　內地　和裝貳拾錢　洋裝貳拾錢
製本出來期　一月四日
當日より御申込の順序に由り送本す

### 本文

○女子修身　女子高等師範學校教授　佐方鎭子
○禮法　同上
○家庭敎育　三輪田高等女學校長　三輪田眞佐子
○家事管理　女子高等師範學校敎諭　後閑菊野
○家事經濟　同上
○家事衞生　東京帝國大學名譽教授醫學博士　三宅秀
衣服　同上
飲食物　同上
住居　同上
動靜　同上

○育兒　同上
○婦人衞生　同上
○看護　東京帝國大學教授醫學博士　呉秀三
○裁縫　東京裁縫女學校長　渡邊辰五郎
○割烹　故　田邊和氣子
○挿花　同上
○點茶　同上
○作文　今泉定介
○作歌　御歌所寄人　坂正臣
○習字　御歌所參候　大口鯛二
○書學　女子美術學校教授　武村千佐子

### 鼇頭挿畫

○音樂（明治音樂會幹事東儀季治）○刺繡（女子共立職業學校刺繡主任教師木村仲子）○造花（同校造花主任教師金子支江子）○編物（同校編物主任教師豐原繁尾子）○組絲（同上）○兒童心理（日本女子大學校教授高島平三郎）○をりむすび○食品分析表○書式○歌御會始預選歌集○婦人名歌集○交際の栞○泰西女禮一斑○家庭遊戲○各地特殊の料理○法制大意○經濟大意○女訓○和書解題○漢書解題○上古、天平、藤原、鎌倉、足利、德川、今代、各婦人服裝の彩色畫（村田丹陵筆）○光明皇后、紫式部、承香殿女御、小大君、平政子、山內一豐夫人、各筆蹟寫眞○明治貴婦人筆蹟寫眞○明治閨秀筆蹟寫眞（以上口繪）此他紙中の挿畫數百個

●本書は內容の有益多趣なるのみならず外形をも高尙優美に裝飾せるものにて進物賞品等に極めて適當なり
●本書は各地特約書肆に發賣を托しあり御便宜の場所にて御購求を乞ふ
●本書の見本御入用の御方は往復はがきにて御申込次第進呈すべし

發行所
東京京橋區柳町五番地　郁文舍（電話本局三〇〇〇）
大阪東區南本町四丁目　積文社（電話東三三八四）

◎右の書籍發行につき本會事務所に於て愛國婦人讀者及本會々員會友並に「をんな」讀者達へ購讀者の便宜を計り左の特別割引を以て送本方取扱ひ候
和裝　割引代價金貳圓九拾錢
洋裝　同金壹圓九拾五錢
但し小包郵便料前掲の通り貳拾錢を要し候尤も東京市內は郵送料を要せず候
東京市麴町區下二番町三十七　大日本女學會事務所（電話番町一三三〇）

恭賀新年

日本帝國徽章商會
全國各學校徽章賞牌ハ弊店ノ獨專業ニ有之候　價格表ハ御報次第呈送ス
東京市麴町區飯田町三丁目　電話番町八百五十七番

專賣特許最新發明
# 空氣暖爐

◉諸官衙府縣立學校醫家各病院御用
◉本器は極めて少量の炭火を以て空氣の作用に依り強勢なる溫熱を發し永く室內へ置も火氣にのぼせる憂なし◉本器に一度炭を投入せば更に手數を要せず十五時間以內同樣の溫度を保つ故客室事務室は勿論寢室又は寒氣を厭ふ病室に用ひ至極妙也
◉正價一個金五圓四十錢（荷造り實費箱代一個金四十錢申受候）
◉本器發賣以來世の高評を博すると共に益々完成を期し今回大改良を施し圖の如き完全無缺の品を發賣仕り候◉本器實物寫眞入り說明書は御報次第進呈候◉
發賣元　東京市淺草區諏訪町一番地　小原商店（特電話下谷八三一番）
大阪市南區安堂寺町四丁目御堂筋北入　小原商店支店（特電話東四六二番）

本店卸部　東京日本橋區長谷川町貳番地　美濃磯本店　電話浪花二八五九　電略ミイソ

小賣部
本鄕區本鄕五丁目十五　電話下谷一四一五　美濃磯本鄕支店
淺草諏訪町廿貳　美濃磯淺草支店
芝區新櫻田町九番地　㊮小田商店
牛込神樂坂町二十八　㊇内 伊澤商店
四谷傳馬町一丁目　㊇内 伊澤支店

婦人科產科榊病院
院長　醫學博士　榊順次郎（每日午前診察）
副院長　醫學士　久保德太郎（每日夕刻診察）
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

耳鼻咽喉科院
院長　ドクトル　山上兼輔　診療每日午前
四谷區本村町三十七番地（十官學校前）　電話番町七三〇

●水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院仵診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

內外科泌尿生殖器科
醫學博士　佐藤進
醫學士　佐藤佐
同　佐藤恒久
同　佐藤達次郎
醫學博士　田中岳太郎
醫學士　阿久津三郎
醫學士　吉井明七
醫局員　菅野徹三郎
同　前田利雄
同　笠間大作
各科專門ノ醫士分擔シテ診療ニ從事ス
每週月水金午後一時ヨリ貧困者ノ爲メ施療部ヲ設ク
本鄕區湯島五丁目お茶ノ水　順天堂醫院　電話本局三六九番

恭賀新年

◎◎◎最新療法◎◎◎
瘰癧（るゐれき）○切開を要せず○して根治す
○心臟病　○脚氣　專門
千葉內科院　神田區三崎町三の一　四通り二十五

小兒婦人科專門
西川醫院　本所區綠町一丁目卅一番地　南わり下水際　電話浪花三千七十三番




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十七年一月一日發行(毎月十日廿五日二回)

女子高等師範學校教授東　基吉先生著　洋裝全壹册

新刊 **幼稚園保育法**

定價七十錢 郵税八錢 ●フレーベル肖像彩色圖形入り美本

本書は著者多年實際につきて研究推敲せられたる結果になりたるものにして先づ筆を一般教育に起して家庭教育學校教育を詳述し次いで幼稚園の必要保育の要旨保育の事項方法其他一切幼稚園に關する實際の事項は勿論フレーベルの詳傳學說に至るまで明瞭に記述して餘す所なく殊に附錄として幼稚園の設計をも添へたれば何人も本書に由りて容易に幼稚園の原理方法に通ずるを得べく要するに幼稚園の何たるかは實に本書を待つて始めて明にせらるゝを得べきなり。幼稚園保育に從事せる人は勿論苟くも幼兒の教育に心を用ひらるゝ人々は是非一本を購うて之を机上に備へざるべからず

發行所 東京市京橋區南傳馬町二丁目 **目黑書店**

大賣捌所 東京市日本橋區通三丁目 **成美堂**

全部六册 **女子自修文庫**

下田歌子先生著 **女子の心得**

金四十錢 郵税六錢

女子には女子の心得あり之を說く豈異性男子の能くする所ならんや經驗あり、學識あり、抱負ある當代女子教育界第一女傑下田歌子先生の筆を煩はす所以。苟も女子と云ふ女子は必ず先づ本書を繙きて得るところ多大なるものあらん。

(續刊)

第二編 女子の文藝
第三編 女子の手藝
第四編 女子の衛生
第五編 賢母と良妻と
第六編 東西女子奇聞

《價格毎編均一》

發行元 東京神田裏神保町 **冨山房**

私事舊臘四國地方に遊說致し引續き九州各地巡回の都合につき閑暇を得ず候まゝ年始の禮を缺き申候此段不惡御垂諒を請ふ

明治三十七年
一月一日
在九州 奥村五百子

**專賣特許竈**

製造發賣元 日本橋區蠣殼町二丁目(電話浪花壹七七番) **名和商店**
神田區松永町十八 和泉橋通 **名和支店**

**盃類圖案一班**

(金、銀、輕白金、白銅、安質母尼杯及木盃製作應用)

●玉田先生 畫

山海圖

功表ノヲ大ル賞適ス
勞彰最洪ナ說ニ用

東京市京橋區尾張町二丁目十六、十七、十八、十九番地
時計寶玉類貴金屬美術品及各種銃砲火藥商 **天賞堂**
(特電話新橋三三三)

天賞堂出張所々在地
●東京市神田●長崎臨時●名古屋臨時●大坂市●廣嶋市●熊本臨時●長崎卅●小樽臨時

無料贈呈 天賞堂營業一覽(送費四錢)

麝香獸印 **ムスク香水**

本石町四 芳香藥種問屋 松澤商店

**壽美花おしろい**

ヴワイヲレット製

伊勢壽吉 壺室製

定價 大瓶二十錢 小瓶十五錢 大中瓶二十五錢 中瓶十錢 小瓶五錢

西洋色白くなる洗劑 **壽美花あらひ粉**

定價綠藍紅彩蝶番ひ錻鐵ブリキ製ボックス三十錢

東兩國 伊勢壽吉 壽美花堂

**恭賀新年**

東京池之端仲町廿七番地
寶丹本舖 守田治兵衞

**婦人ふるちの藥**

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすとかんようにして少しも脾胃にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐりあるまり見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり●南まけづつう目まひによし○ふるちとゝこほり○ながち○しらち○手あし〻びれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つぎむしによし○さんごあとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

本家製藥所 東京市本所區東兩國横網町一丁目 **伊勢吉本店**
(電話浪花二一七五八)

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 大日本女學會內

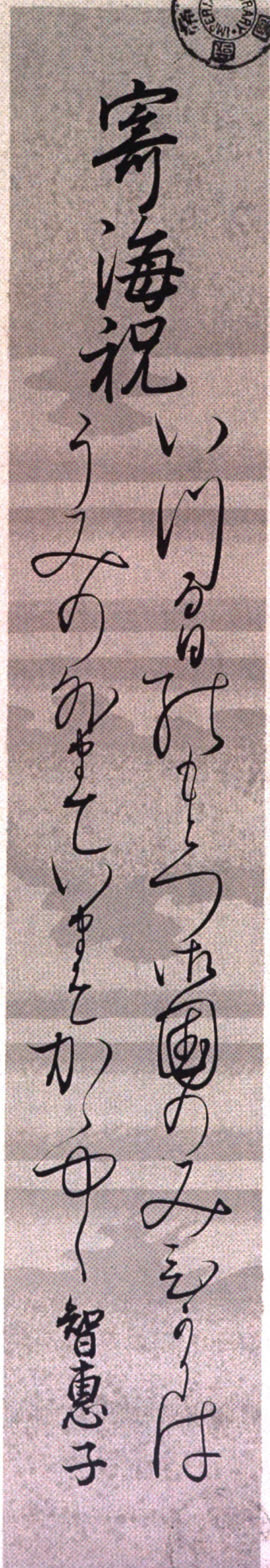
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地株式會社秀英舍第一工場



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

愛國婦人第四十五號附錄（明治三十七年一月一日發行、毎月二回十日廿五日發行）




明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可　發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會内愛國婦人發行所　印刷所　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN